

日本とアメリカのガソリンスタンド



ENEOSサービスステーション



ExxonMobilガスステーション

ここ、テキサス州・ヒューストンは、アメリカ、そして世界の石油産業のメッカの一つです。世界一の民間石油会社であるエクソンモービルをはじめ、数多くの石油会社・石油開発会社が活動しています。今回は、石油事業の中でもみなさんに最も身近なガソリンスタンドについて、日米の違いを中心に紹介します。

呼び名

日本では、ガソリンを給油する施設をガソリンスタンドと呼びますが、アメリカではガスステーションと呼ぶことにご存じのとおりです。

補足しますと、日本の石油業界では、ガソリンスタンドのことをサービスステーション(以下、SSといいます。)と呼んでいます。ガソリンだけでなく、洗車・オイル交換・車検といった車に関するあらゆるサービスをお客様にご提供したいと考えているからです。

店舗数

2020年度末現在の日本のSSは全国に29,005ヵ所、アメリカでは約110,000ヵ所です。(残念ながら、2013年以降は調査がなく正確な数字を確認できません。)アメリカの広さは日本の約24倍ですが(日本:378km²、アメリカ:9,364km²)、SS数では4倍以下にとどまっています。しかし、アメリカのSSが少ないわけでもなく、都市部には多くのSSがあります。代わりに都市間では、全くSSのない地域も多くあります。

製品の種類

日本のSSの多くは、ガソリン2種類(ハイオク・レギュラー)、軽油および灯油を販売しています。アメリカでは、ガソリン3種類(プレミアム/スーパー・プラス・レギュラー)と軽油の販売が一般的です。日本の灯油は石油ストーブ・ファンヒーター用であり、アメリカではこれらが使われないので売っていません。

ガソリンの種類は、オクタン価という品質で決まります。ハイオク(=ハイオクタン価)やプレミアムはオクタン価が高く、エンジンが燃焼しやすくなっています。日本のハイオクは、清浄剤も配合してエンジンをきれいに保ち、本来の能力を発揮し続けられるガソリンになっています。

給油の方法

1998年4月、規制緩和によって日本でセルフサービス式のSSが解禁されました。それまでは全てスタッフが給油するフルサービスSSでしたが、約20年後、2020年度末のセルフSSは10,467ヵ所、全体の約36%を占めています。アメリカでは、以前からほぼセルフSSです。1960年代の人手不足によって十分な人員を置けなくなり、セルフサービスが広がりました。

価格

2022年8月の日本のレギュラーガソリン価格は、1リットル169.5円(全国平均)でした。同時期のテキサス州のレギュラー価格は、1ガロン3.467ドル。1ガロン=3.785リットル、為替を1ドル=135円とすると、1リットル約123.7円となり、差は約46円です。ただ、日本の価格は、政府による燃料油価格激変緩和補助金(現在37.1円/リットル)によって抑制されたものです。本来なら

204.2円だったと予測されています。

価格差の主な要因は、①製造コストおよび②税金です。①製造コストのうち原油代は、国際商品であるために同じ銘柄である限り、どこで仕入れても価格は同じです。(ただし、ドル建て価格なので日本は為替が影響します。)しかし、日本は、主に中東から20日程度かけて原油を輸入し、中小規模の製油所でガソリンに精製するため、製造費が高まります。一方でアメリカは、今や世界一の原油生産国です。自国の原油を使って大規模製油所でガソリンを作るため、世界一競争力がある(コストが安い)と言われるくらいです。②税金は、日本ではガソリンの正味価格に石油石炭税・ガソリン税・消費税が上乗せされ、小売価格の40%以上は税金となっています。アメリカのガソリンの税金は、価格の10%程度に過ぎません。

将来像

従来、日本のエネルギーの中心は石油ですが、未来のエネルギーとしては水素が注目されています。水素は、使用時にCO₂を排出しない究極のクリーンエネルギーです。そこで日本のSSは、水素自動車・燃料電池自動車に水素を供給する水素ステーションへの転換を目指して試行を続けています。また、電気自動車向けの充電器の設置にも取り組んでいます。アメリカでは、テスラ(本社:テキサス州オースチン)によって電気自動車が急激に増えています。自動車メーカーの同社自ら充電器ネットワーク構築に注力していることもあり、充電器の設置は先行しています。(2021年時点で日本:約29,000ヵ所、アメリカ:約114,000ヵ所)



ENEOS水素ステーション

終わりに

日米のSSについて紹介してきましたが、アメリカのSSで触れずに終われないのが、テキサス生まれのバックキーズ(Buc-ee's、本社:テキサス州レイクジャクソン)です!バックキーズの巨大SSは、石油会社の人間でも驚きです。バックキー君(?)によるブランディング、世界最大のコンビニ・世界最長の洗車レーン、米国で最もきれいなトイレなど、エネゴリ君と弊社は、まだまだ努力しなければならぬと痛感しました。



Buc-ee'sガスステーション

参考資料:ENEOS㈱『石油便覧』、石油連盟『今日の石油産業2021』、経済産業省 資源エネルギー庁「燃料油価格激変緩和補助金」、EIA "U.S. Regular Gasoline Prices"ほか

(ENEOS Americas Inc., Administration Group 栗原 崇)